

Ⅱ 豪族や貴族が支配した土佐

(1) 土佐の古墳

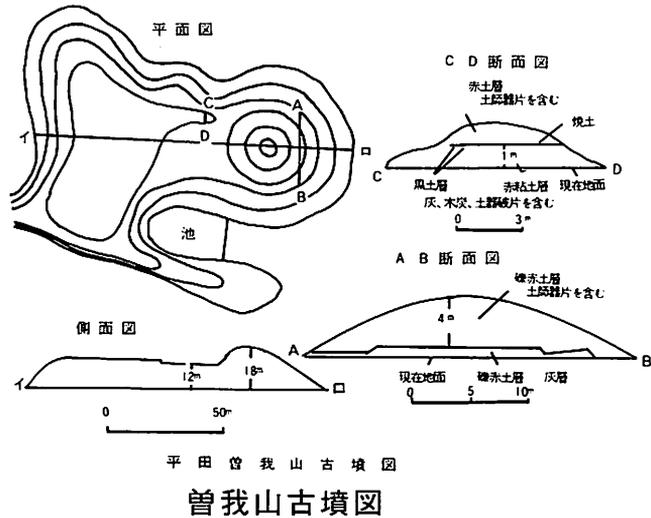
土佐の古墳をつくった人々 農耕生活は、同じ村に住む人々のあいだに貧富の差をうみ、村人たちを支配する人々（豪族）が現れてきました。古墳は、こうした豪族のお墓です。ふつう村じゅうを見下ろせる丘の上や、山のふもとにつくられていました。そこで、私たちはこの古墳を調べていけば、この当時、土佐のどのあたりが開けていたかを知ることができるのです。こうした古墳がつくられた時代を、古墳時代とよんでいます。土佐では、4世紀から7世紀にかけて主につくられたようです。

現在、高知県では、およそ220個あまりの古墳が発見されていますが、このうちの多くが、高知市・南国市・香美市・香南市の県中央部の四市に集まっています。このことは、これら四市が他の地域よりも早くから開けていたことを表しています。

高知県の主要古墳分布図



みなさんは、^{ぜん ほう こう えん ぶん}前方後円墳という古墳の形を知っていますか。教科書や資料集にのっている^{にんとく}仁徳天皇^{りょう}陵のような、前方が長方形、後方が円形をした古墳です。私たちの土佐で発見された古墳のほとんどは、^{えん ぶん}円墳とよばれる円形をしたものです。わずかに、^{すくも ひらた}宿毛市平田にある^{そ が やま}曾我山古墳が、現在発見されている^{ゆいいつ}県内唯一の前方後円墳と考えられています。



曾我山古墳は、^{は た}波多（^{くにのみやつこ(1)}幡多）の国造のものではないかともいわれています。この古墳は、1948（昭和23）年、中学校の建設工事中に^{くうぜん}偶然発見されました。発見されたとき、前方部と後円部の一部はけずりとられており、古墳の内部もすでにこわされていました。この古墳は、土佐で発見された古墳の中で最も大きく、5世紀前半までにつくられていたと考えられています。また、この古墳からは、^{もり は じ き(2)}鏡二面・直刀・鉄銛・土師器などが出土しています。

当時の支配者（朝廷など）の^{けん い しやうりやう}権威の象徴としてつくられた古墳の多くが前方後円墳であると考え、発見された古墳のほとんどが円墳である土佐には、^{おおきみ}大王のように強力な力を持った^{ごうぞく}豪族が当時いなかったと考えられます。また、古墳には、はにわがつきものですが、土佐では、まったく発見されていませんでした。しかし、1977（昭和52）年、^{ふしはらおおつか}伏原大塚古墳（香美市土佐山田町伏原）で、円筒はにわの一部が^{はくつ}発掘され、1991（平成3）年には、珍しい灰色の円筒はにわが出土しました。土佐の古墳研究にとって大発見といえるでしょう。

トピック ながうね 長畝古墳群（岡豊）

1994（平成6）年、南国インターチェンジから西に、四国横断自動車道路（高知自動車道）の工事が本格的に始まりました。この工事にもとない、事前の発掘調査が行われました。南国市岡豊町小蓮から定林寺にかけての山あいの土地から、次々と住居跡や墓石が見つかりました。

定林寺字長畝にある古墳群では、今回の調査で4世紀から6世紀にかけての古墳が見つかりました。鉄剣や鉄製鎌・鋤先・鉄斧（鉄のおの）などのほか、鉄鏃（鉄でできた矢じり）や土師器、須恵器、ガラス小玉、馬具などの副葬品が出土しています。

高知県の古墳時代の研究にとって、重要な発掘調査があいつぎました。

長畝古墳群のすぐ北側の山あいには、奥谷南遺跡があります。

長畝3号墳（岡豊町定林寺）

発掘当初、前方後円墳ではとさわがれましたが、時期のちがう円墳と方墳が重なったものだと調査結果が出ました。



小豎穴式石室



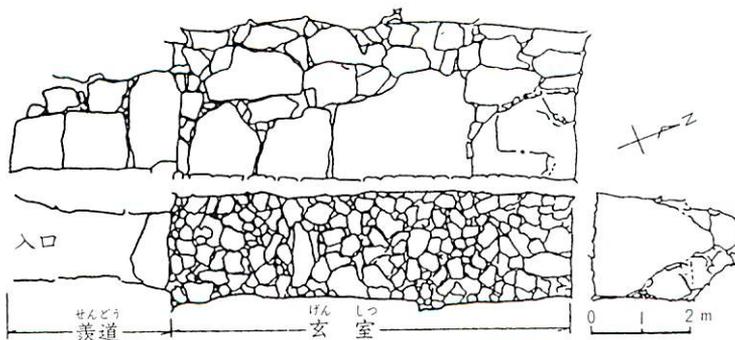
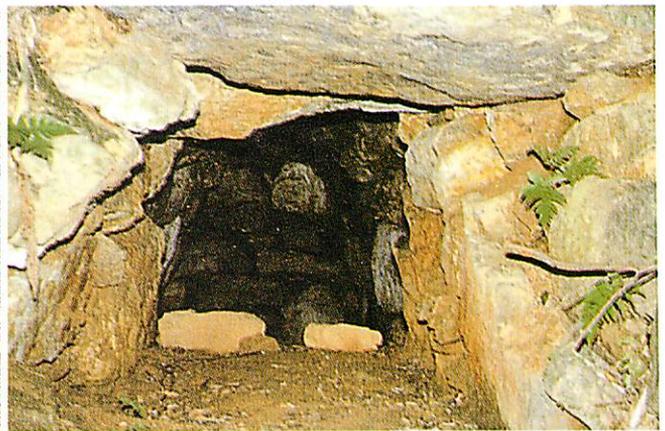
土佐の大きな古墳—県内三大古墳— 伊野行きの電車に乗っていると、朝倉あさくらの次に宮みやの前まえという停留所ていりゅうじよを通ります。そこから、北の山を見ながら電車にゆられていると、森の中に石がむき出しになった朝倉古墳を見つけることができます。

この古墳は、7世紀ごろつくられた横穴式石室古墳で県指定の文化財になっています。明治初期に発掘され、須恵器すゑ・馬具ばぐ・鉄鏃てつそくなどが発見されました。現在は、封土ふうど（盛土もりつち）はなく、天井てんじょうの石やそれをささえる石がむき出しになっています。

南国市明見彦山みょうけんひこやまには、三基さんきの明見古墳があります。そのうちの1号古墳は、6世紀後半につくられた代表的な古墳です。内部には、横穴式石室いったいげんしつがあり、遺体をおく玄室げんしつは、長さ4m、幅3mです。この古墳からは、須恵器すゑ・大刀たう・刀子す(4)・馬具などが発見されました。

朝 倉 古 墳

明 見 古 墳



〈小蓮古墳石室調査図〉

南国市岡豊町小蓮光岩には、小蓮古墳があります。この古墳は、6世紀の終わりごろつくられたと考えられています。南北28m、東西22m、盛土の高さ7mの楕円形をした円墳です。内部には、横穴式石室があり、玄室の広さは、長さ7.6m、幅2.1mの長方形です。1972（昭和47）年の調査で、須恵器・金銅中空玉・金環・鉄刀子などが発見されました。

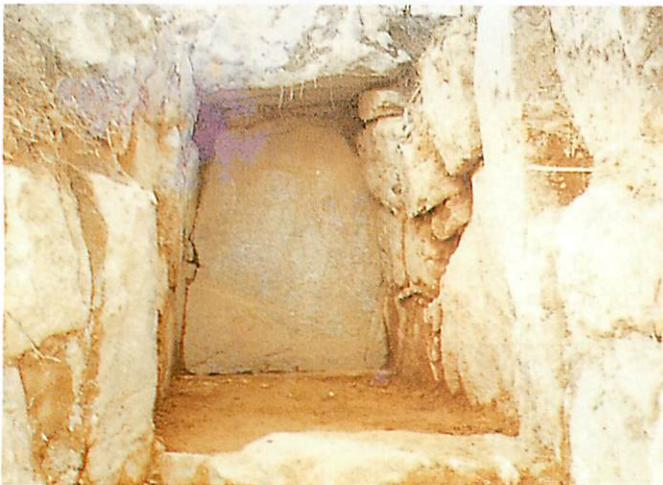


小蓮古墳（南国市岡豊町）

これら朝倉古墳、明見古墳、小蓮古墳を県内三大古墳とよんでいます。そのうちの二つが、私たちの住んでいる南国市にあるのです。

その他、南国市には、舟岩古墳群などがあります。舟岩古墳群は6～7世紀につくられた横穴式石室古墳です。前記の小蓮古墳の北方にありましたが、1967（昭和42）年に調査した後、みかん畑にするためこわしてしまいました。出土品には、土師器・須恵器をはじめ金環・銀環・種々の武具馬具類があり、特に1号墳から見つか

舟岩1号古墳（玄室）



出土品（舟岩8号古墳）



はそう

たかつき

った鉄地金銅張^{ばり きょうよう}の杏葉^{なごう}（馬のくらかざり）は、県下初の発見物です。

南国市岡豊町には、前記の長畝古墳群・小蓮古墳・舟岩古墳群以外にも、蒲原山古墳群^{かもはらやま たきもと}・滝本古墳群などがあります。

土佐の国の成り立ち ところで、土佐の国といつごろからいわれだしたのでしょう。『古事記』によると、伊予国^{いよ}は愛比売^{えひめ}、讃岐国^{さぬき}は飯依比古^{いひよりひこ}、粟国^{あわ}は大宜都比売^{おおいつひめ}、土佐国^{たけよりわけ}は建依別^{たけよりわけ}とよばれていたそうです。建依別^{ごうけんゆうぶ}というのは剛建勇武を意味しています。

古墳に見られるように、このころ県下各地のムラに有力者が出て、支配者として成長してきましたが、やがてこれらのムラの集合体であるクニが生まれてきました。『国造本紀』^{こくぞうほんぎ}によると、大和朝廷が成立したころには、高知県には、「波多」と「都佐」の二国あったようです。この二国の首長^{しゅちやう}（頭）^{かしら}たちは、国造^{くにのみやつこ}としてそれぞれの地域での支配を広めていったのです。「都佐」はその後、「土左」「土佐」と書かれるようになりました。

土佐神社（高知市一宮）

志那祢様^{しなね}で有名な高知市一宮^{いっく}の土佐神社は、土佐の一の宮といわれる格式^{かくしき}の高い神社です。この神社は、都佐の国造^{くにのみやつこ}の氏神様^{うじがみ}だったといわれています。

古代は政治と神を祭ることが一体となっていたので、土佐神社は大きな役目を果たしてきたのです。



- 注(1) 国造^{くにのみやつこ} 大化の改新以前におかれた行政官。一般には、大和政権に従っていた地方の有力豪族が任命された。
- (2) 土師器^{はじ} 弥生式土器の系統を引く赤かつ色の土器。
- (3) 須恵器^{すゑ} 5世紀ころより、大陸から伝わった新しい技術によってつくられた灰色・灰黒色のかたい土器。
- (4) 刀子^{とうす} 現在のナイフに類するもの。
- (5) 金銅中空玉^{こんどう ちゅうくう ぎよく} 装身具^{そうしんぐ}の一つで、銅に金でメッキした小指大の玉。